

電子機器における技術進展と 製品の役割、戦略の変化

—プリンタに見る 製品の位置づけ、戦略の変遷—

2009年5月9日

TM-Lab **ティー・エム研究所**

代表

工学博士
中小企業診断士

芳 賀 知

All rights reserved. No part of this material may be reproduced, in any form or by any means, without permission.

構 成

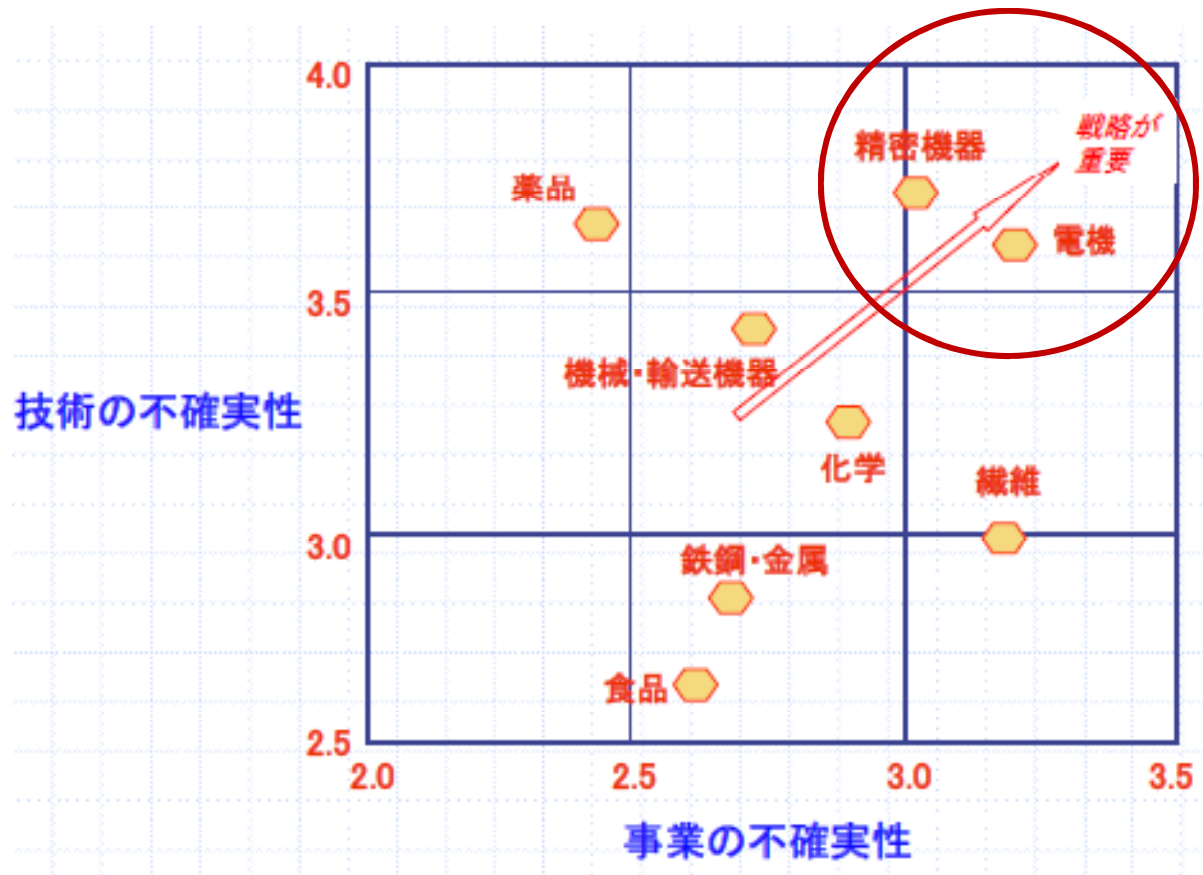
1. 背景
2. 本研究の目的とアプローチ
3. プリンタの分類、印刷方式
4. プリンタの市場動向
5. プリンタの歴史による分析
6. 考察とまとめ

1. 背景

(1) 技術、事業の不確実性の高い産業は？

精密機器と電機産業

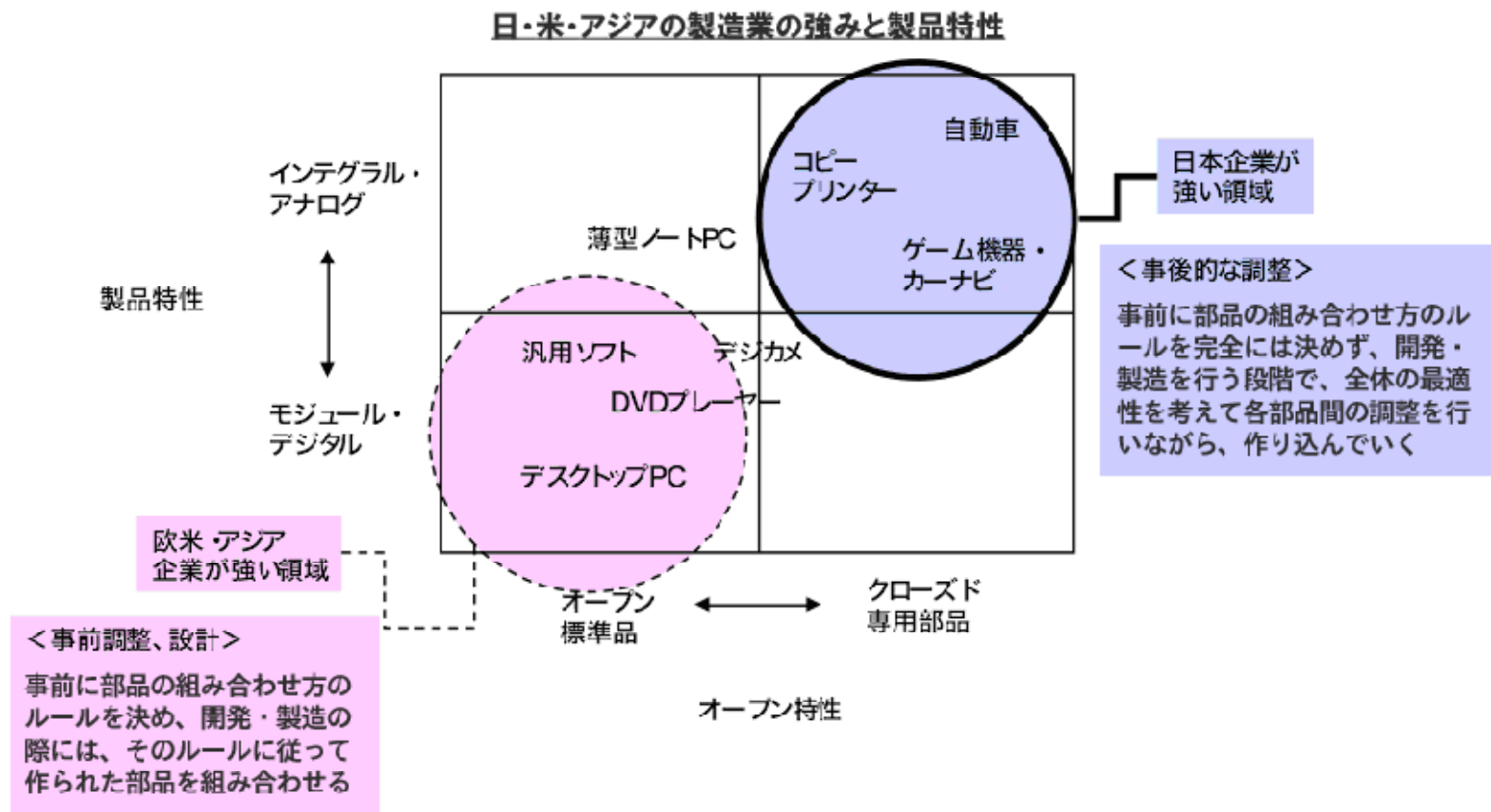
戦略が重要となる



1. 背景

(2) 日本企業が強い領域ーインテグラル、クローズドの領域

欧米・アジア企業は標準化された部品の組み合わせをするタイプの製品の設計・製造に強く、日本企業は、事後的に部品間の組み合わせを調整しながら製造するタイプの製品に強い



資料:「MOT技術経営入門」(延岡 健太郎)、BBTビジネス基礎講座「日本の競争力と製品開発力」(延岡 健太郎) より

1. 背景

(3) 焦点を当てる製品

- * 事業・技術の不確実性が高い(精密機器・電機産業分野)
- * 日本が強みを発揮している分野(インテグラルの領域)
- * 先行研究の少ない分野



プリンタに焦点

- ・電子デバイスの進展の影響が大きい
- ・キーデバイスが、コモデティ化していない
- ・市場、用途が大きく拡大してきた

(補足)

自動車	技術、事業の不確実性がそれほど高くない 先行研究が多い
ゲーム機	市場、用途が特定されている 先行研究が多い
デジタルカメラ	用途が比較的、特定されている 先行研究が多い
携帯電話	日本市場の特殊性(ガラパゴス化)が背景にある
カーナビ	日本市場の特殊性が背景にある

2. 本研究の目的とアプローチ

目的

電子機器として プリンタを取り上げ

○技術進展 → プリンタの印刷方式、アーキテクチャの移り変わり



○プリンタの役割、メーカーの戦略がどのように変化

日本企業の成功要因の考察、今後の方向への示唆 を検討

アプローチ

- (1) プリンタの分類、印刷方式 ー製品側からの視点
- (2) プリンタの市場動向 ー市場側からの視点
- (3) プリンタの歴史による分析 ー時間軸からの視点と分析
- (4) 考察とまとめ